

令和4年産水稻の作柄概況

令和4年12月6日
神奈川県農業技術センター

1 育苗期

育苗期における最低気温が平年より高く推移したため、苗の生育はやや徒長傾向であったが、概ね順調であった。

2 生育初期（移植期～分けつ期前半）

移植時期はほぼ平年並みであった。

苗の活着は5月植えのほ場では概ね良好であったが、6月上旬植えのほ場では6月上中旬の低温により、初期生育に一部停滞が見られた。

3 生育中期（分けつ期後半～出穂期前）

生育中期は6月下旬以降の気温が平年並み～高く推移したため、平年に比べ草丈は長く、茎数は多い傾向であった。

4 出穂期

出穂期は6月下旬以降の気温が平年並み～高く推移したものの、平年並みとなった。

出穂期にあたる8月中旬に台風第8号接近に伴う風雨があり、籾の褐変がやや目立った。出穂期以降の気温は平年並み～やや高く推移し、登熟は概ね順調であった。

5 成熟期

成熟期は平年並みで、登熟日数も概ね平年並みであった。

稈長は平年並み～長い、穂長は平年並み～やや長い傾向であった。穂数は品種、作期によってばらつきがあり、平年よりも少ない～やや多い傾向であった。

9月中旬の台風第14号及び9月下旬の台風第15号接近に伴う大雨により、一部で倒伏が見られた。

6 玄米品質

出穂期以降は、極端な高温傾向とならなかったため、白未熟粒の発生は少なく、品質は概ね良好であった。

一部地域では、カメムシ類による斑点米、刈り遅れ等による胴割米、着色米が見られ、品質が低下した。

7 病虫害、雑草の発生及び諸障害

病害は縞葉枯病、紋枯病、いもち病の発生が一部で見られたが、大きな被害はなかった。内穎褐変病等による籾の褐変が一部で発生した。

害虫は一部地域で発生が多く確認され、また、斑点米カメムシ類の被害が見られた地

域があった。トビイロウンカの飛来が確認されたが、坪枯れの被害はなかった。スクミリンゴガイは前年よりも発生が少なく、被害は見られなかった。

雑草は、中干しを行うまでは藻類、中干し後はノビエの発生が多かった。特定外来生物のナガエツルノゲイトウは、水田への侵入地域の拡大が確認された。

障害としては、8月上旬の高温の影響によると考えられる葉の赤枯れ症状が一部のほ場で特異的に見られたほか、9月中下旬の台風接近による大雨で一部倒伏が見られた。

8 作柄概況

(1) 成熟期の生育状況（平年対比*）

品種	移植時期	稈長	穂長	穂数
はるみ	6月上旬	やや長い	やや長い	やや多い
	6月中旬**	同等	同等	やや少ない
キヌヒカリ	6月上旬	同等	同等	同等
	6月中旬	やや長い	同等	同等
てんこもり***	6月上旬	同等	同等	少ない
	6月中旬	長い	同等	同等

(2) 収量等の状況（平年対比*）

品種	移植時期	精粍重 (10a 当たり)	玄米重 (10a 当たり)	千粒重
はるみ	6月上旬	やや多い	多い	同等
	6月中旬**	同等	やや多い	やや多い
キヌヒカリ	6月上旬	やや少ない	同等	同等
	6月中旬	やや多い	やや多い	同等
てんこもり***	6月上旬	同等	同等	やや多い
	6月中旬	多い	多い	やや多い

*：平年とは過去10年(2012～2021年)平均のことをいう

**：6月中旬植えはるみは、2015～2021年までの過去7年平均との対比

***：てんこもりは、2018～2021年までの過去4年平均との対比